



▲集中して削る参加者(こどもの部)

2月10日、小刀でえんぴつを制限時間内に美しく削る「第8回全国えんぴつけずり大会」が国際交流会館で開催されました。大会は、大人の部と子どもの部合わせて36人、東は千葉県、西は山口県と遠方からの参加もありました。

両部とも予選と決勝があり、参加者は真剣な眼差しでえんぴつを削り、予選を勝ち残った6人が決勝で競い合いました。審査員長の渡辺さんは「甲乙付け難く、こんなに審査が難しかった年はありませんでした」と参加者に称賛の言葉を贈りました。

(2/9) 第8回全国えんぴつけずり大会

「ものづくりの楽しさを学び親しむ」

2月9日、日吉町生涯学習センターで、学生のまち南丹 地域連携フォーラムが開催され、学生や地域の方など約30人が参加しました。

フォーラムでは、学生たちが地域の中で行っている活動を発表したほか、課題や今後の活動について議論を深めました。またワークショップでは、学生が地域で活動する際の課題について5つのグループに分かれ意見を出し合い、課題解決策などを取りまとめて発表し、全体で共有しました。



▲地域の中で行っている活動を発表する学生ら

「学生が地域で活動するためには」

(2/9) 学生のまち南丹 地域連携フォーラム

「収穫祭で感謝の気持ちを伝える」

(12/13) 米作り学習「収穫祭」丹波支援学校中学部

▲地域の方と食事する様子



▲感謝の気持ちを伝える生徒



京都府立丹波支援学校中学部では、地域との共生を目指した「地域とつながる」授業づくりの一環として、平成29年度から地域の休耕田の活用と地域の活性化に向けて、米作り学習「米米くらぶ」に取り組まれています。

12月13日には収穫祭を開催され、米作りでお世話になった地域の方を招き、収穫したお米でおにぎりなどを作り、共に味わいました。また、生徒一人一人の感謝の言葉が詰まった感謝状を渡されると、地域の方たちは喜ばれている様子でした。

「住みよいまちを目指して会員交流」

(1/17) 南丹市身体障害者協会八木支部 新年会

1月17日、南丹市身体障害者福祉会八木支部の新年会が市役所八木支所文化ホールで開催され、会員ら約20人の参加がありました。

開会に際して昨年に続いた豪雨災害での経験やJR八木駅舎のバリアフリー化への取り組みなどの近況の話題に触れながら、障がいのある人もない人も住み慣れたまちで暮らしていけるよう取り組みを進めていきたいと、主催者や来賓者からのあいさつがありました。その後、踊りやマジックショーなどが催され、会員同士で交流を深められました。



▲舞台上で披露される踊り